

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	3 / 1957 / 59-60
タイトル	盛況下に終わった浅虫大会の記
著者名	室谷洋司

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 盛況下に終わった浅虫大会の記

生物部の研究成果は現在の我々に於いては、いかなる機会にこれを表現するだろう。我々はそれを文化雑誌掲載発表会に依るのが普通である。

今年は2回の発表会を持つたのも東北支部が10回大会の印象記を以下の歌文で綴って見ることにした。

日本動植物学会東北支部が10回大会

期日 1957年8月9、10日

場所 青森県浅虫中学校

本校参加演題

1～(9) ゴマシジミの生態—越冬後の成長特に蛹化羽化について

----- 望谷 洋 司

(10) 青森市に於けるゼフィルスの日間活動

----- 佐々木 岩 治

3～(14) 青森市に於けるゼフィルスの分布と環境植物の関係

----- 窪 村 堯

(15) 青森海洋の植物群落

----- 木 下 勝

「東北の数海浅虫の夜は県内外の豆生物学者で賑っているだろうなア、なんと我々の精ない争い」

これは大会前日の我々の姿であった。本大会の鳥採集会もろくに行わず、明日の日を目的に調査を重ねた我々一部々員。そして、夏休みの前半をほとんどその日々に費し、他県人は浅虫に乗って明日を夢見ている時、我々は蚊に悩まされつゝ実験室で徹夜を試みたのである。正に最後の奮闘。図が完成しないというその原因は我々の落度といえども、実は会場の浅虫が近いので、そこさせたのである。漸くして0時は過ぎ9日の暁に3人は一里あるいは三里の道をてくてくと一旦帰宅し、又浅虫に行くと言う決意。

青森取を察したのが8時。「きつと先生はおこっているだろうなア……」という気持ちも「かたかない」という反心がこみこみ上って来るのであった。

昨年の盛況に引き継ぎ今年の大会は浅虫中学であるが会場は三つに分れて、参加校の豊富さ、正に東北の津々浦々からであるが、それでも本県が半数を占める多勢である。参加校は15校、講演数は50を越すというから大したものである。この中に多数の参加もやはり本大会の特色（順色が無い、賞が無い）に依るものと思われるが、「尻巻揃い」と言うことは言うまでもない。

さて我が部員の講演は「ゴマシジミ……」と、「青森市に於けるゼフィルスの分布……」と青森海洋の……が3会場である尚記者としては任務を充分に果たしたとは思われない。従って発表者に直接感想を伺う事にしよう。初めに「ゴマシジミの生態」の望谷君。

『いやいやオー会場は満員だった。ちよつと照れ気味になつた様で感想……と言われても……』

発表前に私が会った先生は非常に興味を持ってくれたので自信を持ってのもの」……。それでもどうやら10数分の発表を終ることが出来ました。なにしろ「ゴマシジミの生態」は不完全なものであるが、後期を説明するだけでも当然でしょうが規定時間では足りないんです。発表終わって弘大の内田博士の批判は、私としてはホメられた積りですが、ともかく「調査はざわめて困難であり、目下今までのゴマについては調査された例は数えるだけである」……と言うのが数年間の苦心に、わずかの奮みを与えたわけです。当日は、宮古高枝の山本先生や大湊高枝の古川先生、盛岡一高、大館鳳鳴、弘前高枝の部屋と話し合う機会も得て楽しかった。」

＊ゼフィルスの日周活動。の佐々木完治君。

「青森市の……と言っても浪館が中心となりましたが本調査には非常に労力を伴いました。まして前夜徹夜という破目に会ったので眠たくて。又、初めなので発表前は少し……でしたがよくはリズムが達しなると平気になってしまいます。他の部員も僕は平然としたと言うように間違ひなく自分の結果を述べる事が出来ました。僕の研究は非常にデータが細かく、後方の人に見えないかも知れないので出来るだけわかりやすく説明しました、ある程度理解してくれた様です。

内田先生は「非常に細部にわたっている……」のように努力をくみ取って下さったので、嬉しく感じ、又調査法も教えてくれましたので今後、一層頑張りたいと思います。」

＊ゼフィルスの分布と植物との関係。の棟方堯君。

「他の部員は非常に口説が硬いと言うが、しかたがありません。青森市のゼフィルスの分布と食草の関係は非常に大規模な調査を行たはならないものですが、幸いに以前の記録に基づき数回の調査が出来たのでまとめる事が出来ました。発表はゴ3会場は一番遅く終わったので一般の人でぎっしりとなりましたが、初めとしては上々であった。と思います。

批評者は、東北大の加藤先生でしたが、まず苦心して作った、そして苦心して持って来た標本をホメてくれ、そして調査法についても徹底的にあり参考になる所、大であった。発表以外でも、色々と泉外の方と蝶についての話が出来る標本を驚異の目で見てくれた事はまず鼻が高かった。

しかし、帰途バスでの眠い事、とうとう、ゲーゲー、珍種の一部を破壊してしまったのは、”逆さ。と言うことでした。”

尚、”青森海岸の植物群落”の木下勝君は、発表会が終わると同時に退部したので感想を伺う事が出来なかつた。山下、浪岡両先輩、そして東北大の皆さんが色々とお援けしてくれて、部としても感謝したい。＊青森海岸の植物群落。本校が部唯一の植物……なのであるから全力を注いだのも無理なからぬことである。

講演終了が3時頃であったろうか。空からは浅虫海岸が夕日に、雲に映えていたが、弘大、内田先生の講評もあり、東北各県の吾人が一堂に会した。9日も明、10日の一般発表を残して終りとなった。10日は我が部が顧問として学看の報告に目を傾ける事が出来たのであるが、9日終了後、大先輩山下氏の案内で水族館を1顧し、研究室で色々との部の発表について、氏の意見を伺った。山下氏には8月4日のやぶなべ会にも世話をあかけしに深く感謝したい。(Y記)

## 正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
59	13	□方堯（□部分が不鮮明）	棟方堯
59	17	その日々に	その準備に
59	27	順色がない	順位がない
59	29	ゴマシジミ…”と、”青森市に…分布	ゴマシジミ…”と”青森市に於けるゼフィルスの日周活動”が第1会場。”青森市に…分布
60	1	もてたもの」…。	もてたものの。」
60	4	批判は	批評は
60	5	つい	ついては
60	7	部室と	部員と
60	30	空からは	窓からは